

事業報告書

事業名	精神保健福祉士の実践研究で活用される学術用語の合意形成に向けた試案づくり
事業の実施状況	<p>平成 29 年度に「精神保健福祉学の重要な概念・用語の表記のあり方に関する調査研究」について取りまとめたところであるが、この 5 年間の変化を受け改訂を行うこととした。</p> <p>今回の改訂作業では、前回抽出した 500 のキーワードをブラッシュアップすると共に、その後の論文等の学問の進歩を反映した約 300 語を加え凡そ 800 語程度を選定したいと考えた。また、これを機に関連する学会での学問的交流を進める試案づくりとしても学術的な研究の成果を生み出したいと考えた。しかしながら、当初予定していた「①各出版社が発刊している社会福祉士及び精神保健福祉士の養成テキストの索引洗い出し作業」は、中央法規出版のみが予定通り発刊し、へるす出版は 2023 年 2 月までで 4 冊発行に留まり、大きく遅れた。また、「②DSM-5、ICD-11 の表記との整合性」についても、翻訳作業が遅れており、未だ比較検討できない状況が続いている。</p> <p>このような中、前回用語 (500 語) のブラッシュアップが約 65%、新規用語の選定が 280 語、提出可能が 575 語 (73%) という実施状況となった。</p>
事業の成果	本研究成果は 2023 年 6 月に予定されている日本精神保健福祉学会第 12 回学術集会 (東京大会) シンポジウムで報告し、会員各自の意見も集約し、近い将来に関連学会とも意見交換し、出来るだけ 800 語を目標に、新たな検討を加えた後には公に刊行する基となる予定である。